

長崎自動車道(東脊振IC～長崎IC)の速度抑制対策の結果

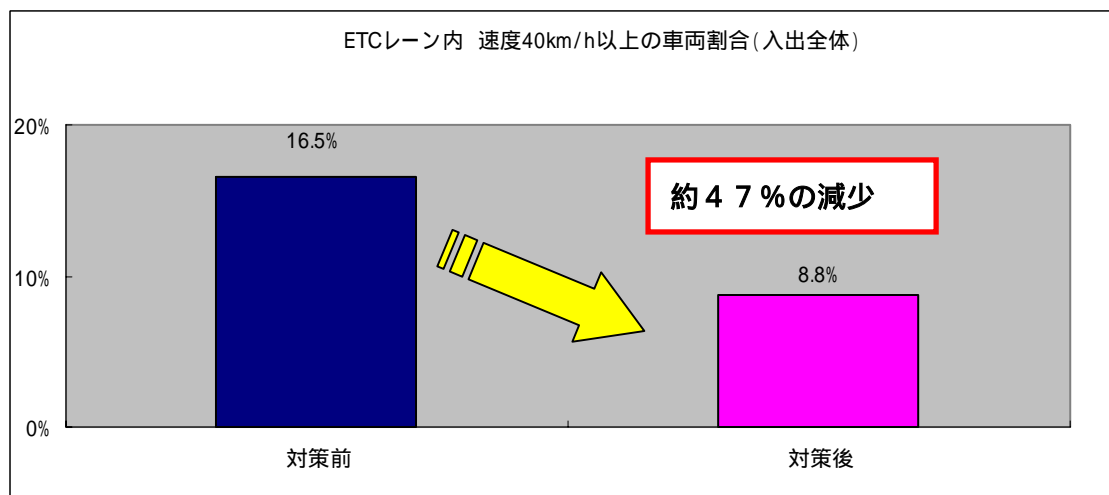
データ比較期間 対策前 平成21年2月16日～平成21年3月15日(28日間)

対策後 平成21年3月17日～平成21年4月13日(28日間)

対策後でETCレーンへの速度超過車両(40Km/h以上)の割合が約47%減少し、更に速度抑制効果により、開閉バー接触の発生率も約22%減少しました。

1. 速度超過車両(40Km/h以上)の推移

長崎自動車道の13料金所での開閉バーの開くタイミングを約0.5秒から約1.0秒に遅延した結果、速度40Km/h以上の車両割合が16.5%から8.8%に約47%減少しました。



2. 開閉バーの接触件数等の推移

開閉バー接触件数及び発生率が減少しました。(接触件数256件から217件 発生率
 $\text{接触件数} \div \text{利用総台数} = \text{接触の発生率}$ 約22%減少 0.0129%から0.01%)

